

高齢者施設・障害者施設の 感染対策事例集

講習動画 手指衛生

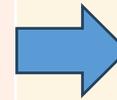
東京iCDC専門家ボード
感染制御チーム

国際医療福祉大学
松本 哲哉 先生



介護施設内の重要な感染経路と対策

感染経路	代表的な病原体
接触感染	<p>細菌（耐性菌） MRSA, ESBL産生菌、多剤耐性緑膿菌（MDRP）, バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）, カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）など</p> <p>ウイルス ノロウイルス、インフルエンザ、COVID-19など</p> <p>ダニ 疥癬, など</p>
飛沫感染	インフルエンザ, RSウイルス、肺炎球菌、百日咳, 肺炎マイコプラズマ, COVID-19など
空気感染	結核



- 1) 手指衛生
- 2) 個人防護具(PPE)
- 3) 環境の消毒
- 4) 個室管理

手指衛生の5つのタイミング (WHO)



手指衛生の5つのタイミング (WHO)

- 患者に触る前
- 清潔な処置を行う前
- 患者の体液に触れた後
- 患者に触れた後
- 病室の環境に触れた後

介護施設における手指衛生の5つのタイミング

- 入所者に触る前
- 入所者にケアを行う前
- 入所者の体液に触れた後
- 入所者に触れた後
- 部屋の環境に触れた後

介護施設における手指衛生の5つのタイミング

- 入所者に触る前
- 入所者にケアを行う前
- 入所者の体液に触れた後
- 入所者に触れた後
- 部屋の環境に触れた後

介護施設における手指衛生の5つのタイミング

- 入所者に触る前
- 入所者にケアを行う前
→きれいな手で入所者を触る
- 入所者の体液に触れた後
- 入所者に触れた後
- 部屋の環境に触れた後
→汚れたらきれいにする

適切に手指衛生を行うために

- 必要な場所に消毒薬を配置する
- 消毒薬の配置が難しければ各自携帯する
- 消毒薬は適切に管理する
(有効期限切れなど)

手指消毒薬は必要な場所に配置します

✕ 間違った事例

手指消毒薬が必要な場所に配置されていない。動線上に手指消毒薬が無い、もしくは少ない。



○ 正しい事例

感染が確認されている入所者の部屋の入口など、必要な場所に消毒薬を設置する。入所者の誤飲リスクにより手指消毒薬の設置が困難な場合は、職員全員が個人持ち用のものを携帯する。

手指消毒薬は必要な場所に配置します

解説

手指消毒は必要なタイミングで速やかに行うことが大切です。そのためにはインフルエンザ、新型コロナウイルス、耐性菌などに感染している入所者の部屋の入り口など、必要な場所に設置して、入室前後で消毒を行う必要があります。さらに、日常業務で汚染しやすい汚物室などにも設置しましょう。また、清潔に配慮すべき食品や飲み物を扱う場所も設置が望ましいです。



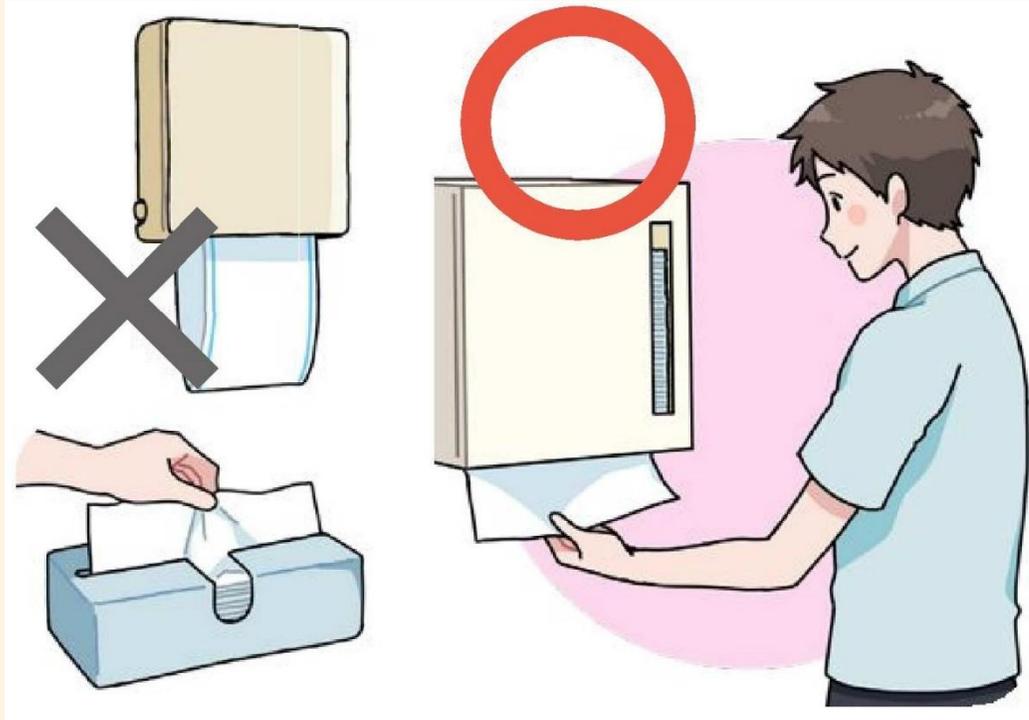
手指消毒薬は必要な場所に配置します

解説

ポシエットタイプの手指消毒薬を各自携帯すれば、こまめに消毒ができます。手指消毒薬はアルコールを含有し、引火する可能性がありため火気の近くには置かず、倒れてこぼれないよう安定した場所に置くか、専用の設置容器で固定しましょう。なお、アルコール手指消毒薬には使用期限があるので、使用開始日を容器に記載し、期限を越えないように管理しましょう。



壁掛けタイプのペーパータオル・ホルダーを使いましょう



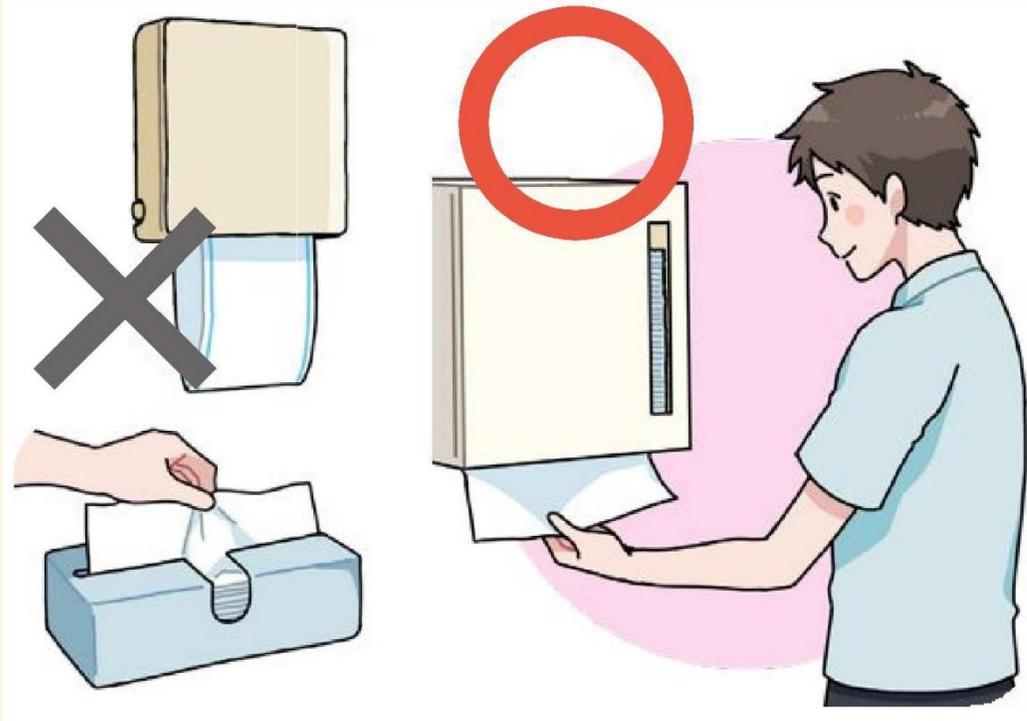
✕ 間違った事例

ロール式タオルや、据置きタイプ（上へ引き出すタイプ）のペーパータオル・ホルダーを使用している。

○ 正しい事例

壁掛けタイプ（下へ引き出すタイプ）のホルダーで、ディスポのペーパータオルを使用している。

壁掛けタイプのペーパータオル・ホルダーを使いましょう



解説

ロール式タオルは他の人とタオルを共有することになり、回転が不十分だと、前の方が手を拭き病原体で汚染された部分で次の方が手を拭き、感染が広がる可能性があります。手を拭くときは、ディスポのペーパータオルを使用しましょう。

壁掛けタイプのペーパータオル・ホルダーを使いましょう



解説

ディスポのペーパータオルを据置きタイプ(上へ引き出すタイプ)のホルダーで使用すると、濡れた手から落ちる水滴で、次の人が使うペーパータオルが汚れます。壁掛けタイプ(下へ引き出すタイプ)のホルダーを使用します。

ポケット内は汚染されやすい場所なので注意が必要です



✕ 間違った事例

ポケット内の鍵やPHSを触った手で、そのまま利用者のケアをしている。

○ 正しい事例

ポケット内に触った後は、利用者に触れる前に手指消毒をしている。

ポケット内は汚染されやすい場所なので注意が必要です



解説

勤務中、ポケットに色々な物を入れて使用すると、手指が汚染されやすくなります。必要のない物は、極力ポケットに入れないようにしましょう。また、ポケット内のものに触れた後は、利用者のケアを行う前に手指消毒をしましょう。

手指衛生に関するまとめ

- 職員の手指を介してさまざまな感染症が広がるリスクがあります
- 手指衛生は感染対策の基本であり介護施設でも常に意識して取り組むべき対策です
- 忙しいから、面倒だからというのはやらない理由にはなりません
- 適切な消毒薬の配置など手指衛生をやりやすい施設内の環境作りを行いましょう